

ＩＣＴを活用したスマート農業導入実証事業に関する事業評価票

都道府 県名	市町村 名	事業実施 主体名	対象作物・畜 産物名	事業実施 初年度	成果目標の具体的な 内容	成果目標の達成状況						
						基準年度	1年目	2年目	3年目	目標年度	目標値	達成率
						平成25年 度	平成26年 度	平成27年 度	平成28年 度	平成29年 度		
北海道	鷹栖町	鷹栖町地 域農業 ICT推進 協議会	米、 きゅう り	平成26年 度	対象品目の農業産出額	72,944,044円	60,736,118円	69,634,822円	80,435,884円	90,279,827円	80,238,448円	112%
					輸出取組（海外展示への出展、輸出商談会への参加）	0回	1回	1回	1回	1回	1回	100%
具体的な取組内容			農業ICTを活用して圃場環境データ等を収集・蓄積し、得られた情報を基に、作物の高品質化・高付加価値化を目指すとともに、ICTを活用した新たな生産方式の確立を目指す。 また、輸出に向けGGAP取得や取組準備を進めることで、産地の収益増加を目指す。									
事業費（円）			平成26年度：17,133,900円（うち国費9,020,590円） 平成27年度：11,633,410円（うち国費5,133,450円） 平成28年度：8,167,880円（うち国費8,103,350円）									

総合評価	A：計画以上の成果が見られる
	B ：計画通りの成果が見られる
	C：計画通りの成果がみられない
総合所見	農業ICTで得られたセンサーデータを活用して最適な散水及び施肥タイミング等を協議会で検証・実施し、作物の高品質化・高付加価値化を図り、着実に農業算出額を向上させている。また、輸出の取組についても、GGAPを取得するとともに、輸出に向けた販路調査・海外での商談会への出展等に取り組んでおり、計画通りの成果が見られると評価できる。

評価観点ごとの所見

a 成果目標が達成されているか
農業ICTで得られたセンサーデータの活用による生産物の品質向上等により、農業算出額の目標を達成している。 また、輸出取組についても、販路の調査や海外での商談会への参加等を行い、目標回数を達成している。
b 計画に則した取組が行われたか
事業計画に基づいて、①地域協議会の開催、②精密農業に必要なシステムの活用及びその成果の評価、③クラウドによる情報システムの利用、④GAP導入・実践支援システムの取組、⑤マーケティング支援の取組が行われており、計画に即した取組が行われたと認められる。
c 予算の執行が適正に行われたか。また予算に見合った成果が出たか
予算の執行については、事業計画に即した予算の執行がなされていることから、適正な執行であると認められる。 また、事業計画に即した取組が行われ、成果目標も達成されていることから、予算に見合った成果が出ていると考える。

ICTを活用したスマート農業導入実証事業に関する事業評価票

都道府 県名	市町村 名	事業実施 主体名	対象作 物・畜 産物名	事業実施 初年度	成果目標の具体的 な内容	成果目標の達成状況						
						基準年度	1年目	2年目	3年目	目標年度	目標値	達成率
						平成25年 度	平成26年 度	平成27年 度	平成28年 度	平成29年 度		
福島県	桑折町	桑折町ス mart農 業実証協 議会	桃	平成26年 度	対象品目の農業産出 額	49,210,0 00円	61,320,4 70円	70,300,0 00円	78,500,0 00円	118,125,0 00円	56,591,5 00円	209%
					輸出取組（セミナー 公聴等）	0回	0回	0回	13回	5回	10回	50%
具体的な取組内容			農業ICTの活用により、生産プロセス等に関する情報を消費者へ発信することで、福島第一原発事故を受け風評被害により価格が下落した桃のブランド力の回復を目指す。 また、輸出に向けてGGAP取得や取組準備を進め、産地の収益向上を目指す。									
事業費（円）			平成26年度：9,428,280円（うち国費8,707,272円） 平成27年度：6,108,971円（うち国費5,740,008円） 平成28年度：5,539,200円（うち国費5,405,928円）									

総合評価	A：計画以上の成果が見られる
	B ：計画通りの成果が見られる
	C：計画通りの成果がみられない
総合所見	農業ICTを活用したWebを通じての栽培状況の情報発信等を通じて、消費者や流通事業者の信頼向上につなげ、農業算出額の向上が図られている。また、輸出の取組についても、GGAPの取得や輸出セミナー等への参加に取り組んでおり、試験輸出も行うなど、計画通りの成果が見られると評価できる。

評価観点ごとの所見

a.成果目標が達成されているか	農業ICTを活用したWebを通じての栽培状況の情報発信やGGAPの取得等により、桃の販売量が増加したことで、農業算出額の目標を達成している。 また、輸出取組については、地域で開催される海外輸出セミナー等へ参加している。目標年度である平成29年度は5回の出席であるが、目標年度1年前の平成28年度には目標回数を上回る13回出席し、前倒しで積極的に活動するとともに、平成29年度にはジャカルタへ試験輸出を行うなど具体的な輸出の取組にも着手しており、成果目標は達成したと見なせると考える。
b.計画に則した取組が行われたか	事業計画に基づいて、①地域協議会の開催、②精密農業に必要なシステムの活用及びその成果の評価、③クラウドによる情報システムの利用、④GAP導入・実践支援システムの取組、⑤マーケティング支援の取組が行われており、計画に即した取組が行われたと認められる。
c.予算の執行が適正に行われたか。また予算に見合った成果が出たか	予算の執行については、事業計画に即した予算の執行がなされていることから、適正な執行であると認められる。 また、事業計画に即した取組が行われ、成果目標も達成されていることから、予算に見合った成果が出ていると考える。

I C Tを活用したスマート農業導入実証事業に関する事業評価票

都道府 県名	市町村 名	事業実施 主体名	対象作 物・畜 産物名	事業実施 初年度	成果目標の具体的な 内容	成果目標の達成状況						
						基準年度	1年目	2年目	3年目	目標年度	目標値	達成率
						平成25年 度	平成26年 度	平成27年 度	平成28年 度	平成29年 度		
茨城県	小美玉 市	いばらき 農流研 ICTコン ソーシア ム	ミニト マト、 葉物野 菜、水 稻	平成26年 度	対象品目の農業産出額	157,920,000円	176,780,000円	171,490,000円	179,300,000円	182,210,000円	195,000,000円	93%
					輸出取組（展示会等への出展、商談会等への参加、輸出へも取り組み）	1回	1回	1回	1回	2回	2回	100%
具体的な取組内容			農業ICTを活用し、土壌環境の最適化等を通して、収量増加・高品質化を目指す。 また、輸出に向けGGAP取得や流通事業者等を通じた海外出荷、カット野菜等の輸出に向けた取組を実施し、収益向上を目指す。									
事業費（円）			平成26年度：10,835,953円（うち国費7,259,667円） 平成27年度：6,009,631円（うち国費5,935,393円） 平成28年度：3,568,492円（うち国費3,502,612円）									

総合評価	A：計画以上の成果が見られる
	B ：計画通りの成果が見られる
	C：計画通りの成果がみられない
総合所見	農業ICTで得られたセンサーデータを活用して最適な土壌水分管理等を行い、作物の収量増加・品質向上を図り、農業算出額を向上させている。また、輸出取組として展示会や商談会へ参加しており、計画通りの成果が見られると評価できる。

評価観点ごとの所見

a 成果目標が達成されているか	農業算出額については、事業開始以前より行っていた玄米の輸出が現地流通価格低下を受けて年々販売額が減少した上、茨城県産米に対する放射性物質規制により、他国への新たな輸出も困難だったことから、平成29年度における目標値にはわずかに及ばなかった。 しかしながら、農業ICTを活用し、最適な土壌水分値を検証・実施することで、着実に収穫量の増加・品質向上といった成果はみとめられている上、販売額についても平成27年度以降、毎年増加させており、平成30年度においては目標値を概ね達成することが見込まれていることから、成果目標はほぼ達成していると考ええる。 輸出取組については、展示会や商談会への参加を通して、目標回数を達成している。
b 計画に則した取組が行われたか	事業計画に基づいて、①地域協議会の開催、②精密農業に必要なシステムの活用及びその成果の評価、③クラウドによる情報システムの利用、④GAP導入・実践支援システムの取組、⑤マーケティング支援の取組が行われており、計画に即した取組が行われたと認められる。
c 予算の執行が適正に行われたか。また予算に見合った成果が出たか	予算の執行については、事業計画に即した予算の執行がなされていることから、適正な執行であると認められる。 また、事業計画に即した取組が行われ、成果目標も達成されていることから、予算に見合った成果が出ていると考ええる。

I C T を活用したスマート農業導入実証事業に関する事業評価票

都道府 県名	市町村 名	事業実施 主体名	対象作 物・畜 産物名	事業実施 初年度	成果目標の具体 的な内容	成果目標の達成状況						
						基準年度	1年目	2年目	3年目	目標年度	目標値	達成率
						平成25年 度	平成26年 度	平成27年 度	平成28年 度	平成29年 度		
佐賀県	佐賀市	佐賀若手 生産者コ ンソーシ アム	玉ねぎ	平成26年 度	対象品目の農業産 出額	24,750,0 00円	24,750,0 00円	23,090,0 00円	15,930,0 00円	30,000,0 00円	29,250,0 00円	103%
					輸出取組（展示会 等への出展、商談 会等への参加、輸 出へも取組み）	0円	3,000,00 0円	3,000,00 0円	2,400,00 0円	2,400,00 0円	2,000,00 0円	120%
具体的な取組内容			農業ICTを活用し、土壌環境の最適化等を図ることで、生産効率の向上及び高品質化を目指す。 また、輸出に向け、GGAP取得や流通事業者等を通じた海外出荷に取り組み、収益向上を目指す。									
事業費（円）			平成26年度：11,581,968円（うち国費7,916,312円） 平成27年度：5,159,603円（うち国費5,159,603円） 平成28年度：2,402,352円（うち国費2,402,352円）									

総合評価	A：計画以上の成果が見られる
	B ：計画通りの成果が見られる
	C：計画通りの成果がみられない
総合所見	農業ICTを活用することで、管理時間を削減するとともに、得られたセンサーデータに基づく最適な土壌環境の検証を実施している。香港等への輸出を通して農業算出額及び輸出金額の目標を達成しており、計画通りの成果が見られる。

評価観点ごとの所見	
a 成果目標が達成されているか	平成28年度は産地で大規模に発生したペト病の影響を受け大幅に農業算出額が減少したが、着実に香港へ輸出等を進めることにより、玉ねぎの販売量が増加し、平成29年度には農業算出額の目標を達成している。 また、輸出取組については、初年度より香港等への輸出に取り組んでおり、目標金額を達成している。
b 計画に則した取組が行われたか	事業計画に基づいて、①地域協議会の開催、②精密農業に必要なシステムの活用及びその成果の評価、③クラウドによる情報システムの利用、④GAP導入・実践支援システムの取組、⑤マーケティング支援の取組が行われており、計画に即した取組が行われたと認められる。
c 予算の執行が適正に行われたか。また予算に見合った成果が出たか	予算の執行については、事業計画に即した予算の執行がなされていることから、適正な執行であると認められる。 また、事業計画に即した取組が行われ、成果目標も達成されていることから、予算に見合った成果が出ていると考える。